

千葉県営水道事業中期経営計画(令和8年度～令和12年度)(案)【概要版】

第1章 計画の趣旨及び性格

日常生活や経済活動に欠かせない水を将来にわたり安定して供給するため、前計画期間で実施した取組の成果を踏まえつつ、施設や管路の更新・耐震化等をより一層進めることを目的に策定。県営水道の目指す方向性である基本理念及びこれを実現するための基本目標に基づき、今後取り組むべき各施策を定めた水道事業の経営に関する基本計画かつ具体的な事業などを着実に推進するための実施計画。

第2章 県営水道の今日の姿

給水人口:約309万人(令和7年3月末現在、全国第3位の大規模事業者)
給水区域:県北西部の11市(市川市・鎌ヶ谷市・浦安市の全域、千葉市・船橋市・松戸市・成田市・習志野市・市原市・印西市・白井市の一部)

第3章 県営水道の現状と課題

1.施設や管路の計画的な更新及び適切な維持管理

県営水道の浄給水場等の施設や管路については、高度経済成長期以降に集中的に整備されたものが多く、急速に老朽化が進行。漏水事故等を未然に防ぐため、**施設の計画的な更新とこれまで以上に適切な維持管理が重要となります。**

2.様々な災害や事故等への備え

東日本大震災や令和元年房総半島台風による被害等を踏まえ、施設・管路の耐震化や停電・浸水対策等を進め、様々な災害や事故等に備えてきました。**近い将来発生が懸念される首都直下地震等の大規模地震に備えて、施設・管路の耐震化等の危機管理対策を引き続き推進していく必要があります。**

3.安全な水の供給

県営水道の水源は、利根川水系の下流に位置しており原水水質が決して良好とは言えず、水源の監視や保全、高度浄水処理の導入による水質管理の取組を進めてきました。近年は気候変動に伴う局地的な大雨の頻発やPFOS及びPFOAといった汚染物質による水質への影響が懸念されるため、**今後も水源の監視や保全、適切な浄水処理など徹底した水質管理を行う必要があります。**

4.お客様のニーズに応える取組

広報・広聴活動、おいしい水づくり、お客様専用ページ(マイポータル)の創設などお客様に寄り添った取組を進めてきました。今後もおいしい水への要望に応えるとともに、**お客様の利便性向上に向けた対応を検討していく必要があります。**

5.大規模事業者の責務と社会貢献

本県の水道事業者は、人口減少に伴う有収水量の減少、施設・管路の老朽化対策や耐震化の促進、職員数の減少など、単独の事業者では解決が難しい課題に直面しており、県では**水道事業者の統合・広域連携を進めています。**全国第三位の規模の事業者である県営水道は、この取組に積極的に参画して本県の水道の安定供給体制の構築に寄与することが求められています。

6.健全な経営及び運営体制の確保

水道施設の老朽化に伴う建設事業費の増加や物価高騰に伴う経費の増加により、収支の赤字や資金不足が見込まれたことから令和8年4月1日に料金改定を実施。今後も**事業量の増加が見込まれ、計画的に事業を進めるためには、財源確保や人材の確保・育成等、安定した経営体制の確保に努める必要があります。**

課題解決
のために

第4章 県営水道のこれからの経営

○基本理念(目指す方向性):「**くらし**」や「**まちの発展**」を支え続ける水道の確立

○基本目標(目指す姿): **I 強靱 II 安全 III 信頼 IV 持続**

第5章 実施計画(5か年の主要施策)

I 強靱 ～災害時においても給水し続ける施設の構築～

老朽化の進む浄給水場、管路について、デジタル技術等も活用した予防保全による適切な維持管理を行いながら、計画的な更新・整備を進めるとともに、激甚化する災害に対応するため、耐震化等の災害対策に加え、関係機関との連携による危機管理体制の強化を図り、強靱な水道を構築します。

<主な取組>

- 浄給水場・管路の更新、整備、維持管理(管路更新のペースアップ、デジタル技術等を活用した維持管理)
- 浄給水場・管路の耐震化の推進(更新時に併せて耐震化することを基本とするが、被災時の影響が大きい急所施設や湾岸埋立地域・最重要給水施設につながる管路を優先して耐震化)

II 安全 ～安心して使い続けられる安全な水の提供～

お客様にいつでも安心して水をお使いいただけるよう、水源水質に対応した適切な浄水処理を行うとともに、浄水場から蛇口まで、水質管理を徹底し、安全で安心な水をお届けします。

<主な取組>

- 水源の監視・保全(水源水質の定期的な調査や汚染状況に応じた臨時調査)
- 水質管理の徹底(適切な水質管理を行うための各種計画の運用、検査機器の更新、計画的な管内洗浄)

III 信頼 ～お客様・社会のニーズに応え続けていく～

ライフスタイルの変化等に伴い多様化するお客様のニーズにお応えするため、デジタル技術の活用等による各種手続きの利便性向上などに取り組み、お客様からの信頼を確保するとともに、県が進める県内水道の統合・広域連携に参画することで大規模事業者としての責務を果たしていきます。

<主な取組>

- デジタル技術を活用したお客様の利便性向上(マイポータルやチャットボットの安定的な運用と一層の利用促進)
- 県内水道の統合・広域連携への参画(県が進める更なる水道統合・広域連携に向けた検討への積極的な参加)

IV 持続 ～安定した経営を続けていくための体制づくり～

人口減少が進む中でも、水道を支える人材の確保・育成等により強固な運営体制を維持するとともに、計画的な更新・整備を進めるための財務基盤の強化を図ることで、持続可能な運営基盤を確立します。

<主な取組>

- 人材の確保・育成及び能力開発(学校訪問等による企業局の魅力発信、OJTを通じた技術力の継承)
- 水道施設整備の財源の確保(企業債の活用、一般会計繰出金・国庫補助金の確保)
- 適正な料金水準の検証(毎年度の決算を踏まえた収支見通しのローリングや料金水準のあり方の検討)

<計画の進行管理と評価> 毎年度の目標に対する進捗状況の確認・評価の結果を次年度以降の事業計画に反映させるなどPDCAサイクルによる進行管理を行います。

第6章 財政収支見通し

計画期間中の令和8年度からの5年間は安定した財務運営が可能と見込まれますが、今後も経営を取り巻く環境は流動的であることから、毎年度の決算、国の財政措置の動向や経済情勢などを考慮し、ローリングを実施することで、計画の実効性の確保に努めます。

千葉県営水道事業中期経営計画(令和8年度～令和12年度) 計画の体系

基本目標	主要施策	主な取組	主な事業	
			事業名	事業内容
I 強靱 ～災害時においても給水し続ける施設の構築～	(1)安定給水の確保	① 浄給水場等の更新・整備・維持管理	園生給水場更新事業	千葉市都市計画道路事業の支障となる配水池の撤去
			栗山給水場再整備事業	再整備のため旧栗山浄水場の浄水施設の撤去
			浄給水場等の施設・設備の点検	定期的な点検による予防保全型の維持管理を行う
		② 管路の更新・整備・維持管理	小中口径管路更新工事	老朽化した小中口径管の更新
			大口径管路更新工事	老朽化した大口径管の更新
			第二木下～柏井導水管整備事業	既存導水管が老朽化していることから、新たに第二木下～柏井導水管を整備
			配水管路の漏水調査	管路の漏水調査の実施
		③ デジタル技術等の活用	ICTを活用したポンプ設備の遠隔モニタリング試験	無人の給水場等でICTによる遠隔モニタリング試験を実施
			ウェアラブルカメラを活用した施設点検等	現場作業の共有・記録のため、ウェアラブルカメラを活用した施設点検を実施
	人工衛星を活用した漏水調査		人工衛星を活用した漏水調査を試行的に実施し、効果を検証	
	ドローンを活用した水管橋の点検調査		近接目視による点検が構造上困難な水管橋について、ドローンによる点検を実施	
	(2)災害に強い施設整備の推進	① 浄給水場等の耐震化の推進	柏井浄水場西側施設(洗浄水槽)の耐震化	耐震性能の低い洗浄水槽の耐震化に係る設計・工事を実施
			浄給水場等の配水池の耐震化	耐震性能の低い配水池の耐震化に係る設計を実施
		② 管路の耐震化の推進	湾岸埋立地域に埋設された管路の耐震化	湾岸埋立地域に埋設された管路の耐震化を実施
			最重要給水施設に供給する管路の耐震化	最重要給水施設につながる管路の耐震化を実施
			小中口径管路更新工事(再掲)	老朽化した小中口径管の更新
	(3)危機管理体制の強化	① 緊急時に備えた体制の充実	非常時対応訓練の実施	震災対策総合訓練、テーマ型訓練、支援協力員との応急給水訓練を実施
			応急給水等連絡調整会議の定期的な開催	応急給水等連絡調整会議を開催し、各市との連携強化を図る
② 給水区域内11市等関係機関との連携強化		給水区域11市との合同訓練の実施	応急給水塔連絡調整会議での意見交換を踏まえ、応急給水の適切な役割分担等に関する訓練を実施	
II 安全 ～安心して使い続けられる安全な水の提供～	(4)安全で安心な水の供給	① 水源の監視・保全	水源の水質調査の実施	水源の水質について定期的な調査や臨時調査を実施
			水安全計画の運用	国の水質基準の改正や対応事例などを踏まえ、必要に応じて計画の見直しを実施
		② 水質管理の徹底	水質検査計画の運用	水質検査計画に基づく水質管理を実施
			水道GLPの運用	水道GLPの運用状況の評価、水道GLPの認定更新(4年に1回)を行う
			水質検査機器の更新	水質検査機器の計画的な更新を行う
			送・配水管の計画的な洗浄	赤濁水等の発生を防ぐため、計画的に管内洗浄を実施
			貯水槽水道の適正管理と直結給水の促進	貯水槽水道地域巡回サービスの実施や、貯水槽設置者への指導・助言を行う
III 信頼 ～お客様・社会のニーズに応え続けていく～	(5)お客様のニーズに応える取組	① 「お客様の声」を活かした事業運営	県営水道ホームページの内容充実	お客様が必要とする情報を速やかに公開するため定期的な更新を行う
			浄水場見学会	利用者や小学校を対象に浄水場見学会を実施
			アンケート調査の実施	県営水道利用者を対象としたアンケート調査を実施
		② おいしい水への要望に応える取組	「お客様の声」の集計・分析及び各所属へのフィードバック	事業の運営・改善のため、広聴等で寄せられたお客様の声を関係部門にフィードバックを行う
			残留塩素低減化試験の実施、気候変動に伴う水質変化への対応	残留塩素低減化試験の実施、気候変動に対する適切な塩素管理のためデータの蓄積・分析を行う
			オフィシャルサイト等による情報発信、水道出前講座の開催、水道水を飲む機会の提供	おいしい水のPRのため、「水道出前講座」や浄水場見学会時に「利き水」を実施
	(6)大規模事業者の責務と社会貢献	③ デジタル技術を活用したお客様の利便性向上	水質検査体験の実施、おいしい水検定の実施	おいしい水への理解を深めてもらうため、「水質検査体験」や「おいしい水検定」を実施
			新受付システムの導入に伴うオンライン化の推進	マイポータル等の安定的な運用及び利用促進を図る
			① 県内水道の統合・広域連携	県が進める更なる水道統合・広域連携に向けた検討への積極的な参加
			② 県内事業者への技術支援及び国内・国際貢献	水道技術研修の開放による県内事業者への技術支援
先進的な取組事例等の情報発信	全国会議(水道研究発表会)等で先進的な取組事例等を情報発信			
開発途上国への技術支援	JICAが主催する海外水道事業者研修生への研修に協力			
IV 持続 ～安定した経営を続けていくための体制づくり～	(7)安定した運営体制の確立	① 人材の確保・育成及び能力開発	ホームページ・広報誌による情報発信、学校訪問、職場見学会等の実施	職員確保のため、パンフレットによる魅力発信や工業高校等への学校訪問及び職場見学会を開催
			役職や担当業務に応じた効果的な研修の実施、OJT基本計画に基づく組織的OJTの実施	人材育成のため研修の実施や技術の継承のためOJTの有効な推進を図る
			水道技術者を育成するための水道技術研修の実施	初任職員等に対し、知識や技術習得を目的とした研修を実施
		② 民間活力やデジタル技術等の活用による業務の効率化	デザインビルド等の新たな発注方式の調査・研究	大口径管路の更新ペースアップのため、デザインビルド等の新たな発注方式を調査・研究
			ICTを活用したポンプ設備の遠隔モニタリング試験(再掲)	無人の給水場等でICTによる遠隔モニタリング試験を実施
			ウェアラブルカメラを活用した施設点検等(再掲)	現場作業の共有・記録のため、ウェアラブルカメラを活用した施設点検を実施
	(8)健全経営の推進	③ システムの安定運用及びセキュリティ対策の強化	人工衛星を活用した漏水調査(再掲)	人工衛星を活用した漏水調査を試行的に実施し、効果を検証
			ドローンを活用した水管橋の点検調査(再掲)	近接目視による点検が構造上困難な水管橋について、ドローンによる点検を実施
			新受付システムの導入に伴うオンライン化の推進(再掲)	マイポータル等の安定的な運用及び利用促進を図る
		① 費用の節減	情報システム及びネットワークの整備	機器等の更新及びシステム改修を計画的に行うとともに適切な維持管理を実施
			ネットワークの監視	24時間365日通信機器の動作状況を監視、障害発生時は即時対応を行う
			情報セキュリティ研修の実施	全職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施
	② 水道施設整備の財源の確保	水道技術者の育成	デジタル技術の活用による業務の効率化等により費用の節減を図る	
		企業債の活用及び適正管理	企業債の借入れなど適正管理に努め、財源の確保に取り組む	
		財政収支見通しのローリング及び料金水準の検証	毎年度の決算等を踏まえた財政収支見通しのローリングを実施、料金水準のあり方の検討などを行う	